各画像の詳細・解説一覧

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
0-0	北と南の出会い	プロローグ	北海道の南には、本州、四国、九州、沖縄へと島々がつづいています。北にはサハリン（樺太）が長くのび、その先にはユーラシア大陸がひろがっています。東に千島列島をたどると、その先はカムチャツカ半島です。北海道はこれらをつなぐ位置にあり、遠い昔から、多くの生き物や人、物が行き交う交差点となってきました。北からはマンモスゾウ、南からはナウマンゾウがやってきました。 床にえがかれた北海道の上に立ち、まわりをながめてみましょう。	P.8～9	—	—
0-0-1 0-0-2	ナウマンゾウ	プロローグ	ナウマンゾウは、約65万年前から数万年前まで主に東アジアに棲んでいた温暖な気候を好むゾウで、北海道には少なくとも12万年前に本州からわたってきました。 1969（昭和44）年に十勝地方の忠類村（現在の幕別町）で発見されたナウマンゾウは、全国から集まった研究者とボランティアによって発掘され、ほぼ1頭分の化石が見つかりました。2010（平成22）年に行われた研究によって、年をとったオスのゾウであることがわかりました。	P.10	理科（地学）	Q. ナウマンゾウとマンモスゾウの骨格標本を比べて、同じところや違うところを観察してみよう A. 牙に注目（同じところ：牙がある、違うところ：牙の形） * 牙の形の違いは、それぞれのゾウの生活スタイルと関係がありますので、解説文をご覧ください。
0-1-1 0-1-2	マンモスゾウ	プロローグ	マンモスゾウは、約40万年前から約1万年前までヨーロッパやシベリア、北アメリカなどに生息していた寒冷な気候を好むゾウです。シベリアで発見された氷づけの死体（ミイラ）によって、体が長い毛で覆われていたことや小さな耳を持っていたことなど、寒冷な気候に適した体であったことがわかりました。北海道には、数万年前のとくに地球が寒かった時期に、サハリンを通過して大陸から渡って来ました。	P.11	理科（地学）	同上
1-3-2	カラザケ100本と米俵	第1テーマ	17世紀中ごろのアイヌ民族と和人の交易では、アイヌ民族が用意したカラザケ100本が、和人の米俵1俵と交換されました。1665（寛文5）年、松前藩は交易品の価格を改定し、1俵の量は、左の2斗入り（約30kg）から右の7斗入り（約10kg）へと、半分以下になりました。アイヌ民族の和人への不満は募り、これが1669（寛文9）年のアイヌ民族の蜂起・シャクシャインの戦いにつながっていきました。	P.29	社会科（アイヌ文化）	Q. アイヌの人びとは、どのような方法でサケをとっていたのか。 A. サケをとる方法の1つに、マレクという漁具を使った漁法があります。第2テーマの伝統を学ぶのコーナーで展示している、丸木舟、マレク、関連動画とあわせて見学することで、より一層アイヌ文化への理解が深まります。

番号	展示名(資料名)	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
1-3-3	蝦夷地の産物コレクション	第1テーマ	超巨大なトドの皮。ゴマのような模様が入ったアザラシの皮。黒いのはクマの毛皮かな。いろいろな毛皮や、海でとれたものが大集合。ワシの羽やツルまであります。これらは全部、アイヌ民族が和人と交易をするためにとってきたものです。一方、アイヌ民族が和人から手に入れたものは、お米、お酒、たばこ、鉄の道具、漆器、木綿などです。アイヌ民族と和人はさかんに交易を行い、お互いに持っていないものを交換しました。	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	Q. 「アイヌ民族から和人への交易品」と「和人からアイヌ民族への交易品」にわけてみよう！ A. 各資料の学習のポイントに記述 * 事前学習で予想をすることで、博物館では 確かめ をすることができます。
1-3-3	タンチョウ	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	トドの皮、クマの皮	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	カラザケ(干鮭)	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	干しニシン(干鯨)	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	干しダラ(干鱈)	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	干しアワビ	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	イリコ(煎海鼠)	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	コンブ(昆布)	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	ワシの尾羽	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	アイヌ民族から和人への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	米【米俵】	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	木綿糸	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	木綿衣	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	まさかり【鉄の道具】 * 写真の上	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	鎌【かま】【鉄の道具】 * 写真の中	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	鉈【なた】【鉄の道具】 * 写真の下	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	鍋【なべ】【鉄の道具】	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	椀【わん】【漆器】	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ
1-3-3	盃【さかずき】【漆器】	第1テーマ	-	P.30~31	社会科(アイヌ文化)	和人からアイヌ民族への交易品 17~18世紀(1600~1700年)ごろ

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
1-3-3	酒（酒樽）	第1テーマ	-	P.30~31	社会科（アイヌ文化）	和人からアイヌ民族への交易品 17～18世紀（1600～1700年）ごろ
1-3-3	煙管[きせる]	第1テーマ	-	P.30~31	社会科（アイヌ文化）	和人からアイヌ民族への交易品 17～18世紀（1600～1700年）ごろ
2-2	伝統を学ぶ	第2テーマ	みなさんも、それぞれに、自分にとっての伝統的なくらしやしきたりなどを意識したことがあると思います。ここにあるモノの多くは、いまから100～200年前のアイヌのくらしのなかで使われていたものや、それらを復元したものです。現在、このような生活をしているわけではありません。けれども、衣服や木彫りの技術を学び、自分でつくっている人たちや、伝統的な文様を現代のアクセサリーなどに活かそうとする人たちもいます。	P.52	社会科（アイヌ文化）	いろいろな本などで「アイヌ文化」が取り上げられるとき、しばしば、ここに見られるような、昔の衣食住のすがたが紹介されます。けれど、言うまでもなく、現在のアイヌの人びとは、このような道具を使って、毎日の生活をしているわけではありません。 そのため、アイヌ文化を正しく理解するためには、アイヌ民族の現在を、これまでの歩みとあわせて知ることが重要です。 このことを、マンガ形式でまとめた説明が展示場（第2テーマ「アイヌ文化の世界」のうち「現在を知る」のコーナー）（ビジュアルガイドではP46～51）にございます。先生ご自身の勉強や、学校での事前学習で是非ご利用ください。
2-2-1	丸木舟	第2テーマ	この丸木舟は、昔、千歳地方で実際に使われていたものです。このような船は、主に、河川での漁や、川を渡る時などの交通手段として用いられました。舟の上に設置されているモニターでは、丸木舟を操る様子を記録した映像などを見ていただくことができます。	-	社会科（アイヌ文化）	*丸木舟の上の方に設置しているモニターでは、丸木舟に乗りマレクを使って鮭をとる場面の記録映像を見ることができます。資料の観察とあわせて学習することで、より一層アイヌ文化への理解が深まります。 *この映像は、1925（大正14）年に制作された記録映画のために撮影された場面です。実際には、明治時代以降、河川でのサケ漁が禁止されたり規制されたりしたため、このような道具を使って自由にとることができなくなっています。
2-2-1	マレク *写真の下	第2テーマ	川でサケやマスなどの魚を捕る道具（画像の下の道具）。魚を突くと、先端の溝にはめ込まれた鉄の鉤が溝から飛び出し魚体を吊り下げため、魚が暴れても抜けないのです。江戸時代のアイヌ民族を描いた絵画のなかには、すでにこの道具が描かれています。また、サハリン（樺太）やアムール川流域の諸民族も、似たような仕組みの道具を持っています。	P.53	社会科（アイヌ文化）	同上
2-2-1	小型の動物をとるための罟	第2テーマ	テンなど小型の動物を捕るための罟です。アイヌの人びともさまざまな罟を使っていました。罟は、いちどにくつも仕掛けることができ、獲物に感づかれる心配もありません。なにより、獲物の毛皮に傷をつけずに捕ることができるのです。	P.53	社会科（アイヌ文化）	ここに展示している道具の多くは、いまから100～200年前のアイヌのくらしのなかで使われていたものです。

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
2-2-2-1 2-2-2-2 2-2-2-3 2-2-2-4	伝統的な衣服①②	第2テーマ	衣服は、両側がガラスのケースで展示していますので、刺しゅうや文様のようすなどを、じっくりご覧ください。2～3か月ごとに展示する衣服を入れ替えていきますので、再びお越しいただいたときには、また違った衣服を見ていただくことができますと思います。	P.54	社会科（アイヌ文化）	資料が展示されているケースの近くには、「樹皮の布」(2-2-2-4)や「木綿の刺しゅう」(2-2-2-3)を触って観察できるコーナーがあります。樹皮から繊維をとって布を織り、衣服をつくるまでの行程や、刺繍はどのような手順で縫われたのかを実物や写真を使ってわかりやすく解説しています。衣服の観察とあわせて学習することで、より一層アイヌ文化への理解が深まります。
2-2-3	カムイへの捧げものとなる木幣（イナウ）	第2テーマ	比較的多く見られるのは、ヤナギやミズキなどを切って皮をはぎ、外側を削って房のようにしたのですが、そのほかにもさまざまな形のものがあります。カムイへ捧げたり、魔物をはらうときに使ったり、イナウそのものを「家を守るカムイ」として祭るなど、いろいろな用途があります。	P.55	社会科（アイヌ文化）	Q. 「カムイ」って何？ A. アイヌ民族の信仰では、この世のあらゆるものに「魂」があると考えられています。なかでも、動物や植物など人間に恵みをあたえてくれるもの、火や水、生活用具などくらしに欠かせないもの、天候や伝染病など人間の力がおよばないものなどを〈カムイ〉として敬います。そして、この世界は、人間とカムイとがかかわりあい影響し合っており立っていると考えられています。 * 「カムイ」については、当館アイヌ民族文化研究センターで発行している『アイヌ文化紹介小冊子 ポン カンピソシ 5 いのる』にも解説があります。小冊子は、当館で無料配布しています。また、ウェブサイトでも公開しており、ダウンロードすることも可能です。検索方法は、「北海道博物館HP → 学ぶ → アイヌ文化を学びたい方へ」となります。 * 小冊子に関するご質問などは、011-898-0456（北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター 教育普及担当）までお問い合わせください。
2-2-4	アイヌの昔の家屋	第2テーマ	ここにある家屋は、胆振地方の白老で生まれ育った浜弥一郎さん（1916～91）の指導のもとに復元された昔の住まいです。博物館の天井の高さに合わせて、少し小さめに復元されています。中央に炉がつくられ、家族のすわる場所、寝るところ、宝物や儀式の道具をおく場所などが決まっています。炉ではつねに火種を絶やすことはなかったといわれています。火をたきつづけることで地面があたためられ、壁や屋根のヨシなどが断熱材となり、さむい冬をしのぐことができました。	P.56～57	社会科（アイヌ文化）	Q. この家、いまの家と比べると小さく見えますね？ A. みなさんの家と比べると、小さく見えるかもしれませんが、ただ、同じ時代で考えると、和人の移住者の家と比べて、アイヌ民族の家が特別小さかったというわけではないようです。また、この家は今から120～150年ほど前の実際の家と比べると、全体的に小さめに作られています。 Q. 寒くなかったのですか？ A. 今の家と比べると寒かったでしょう。ただ、断熱になるような材料を壁や屋根に使ったり、炉の火を焚き続けたりなど、さまざまな防寒の工夫がありました。 * 家屋の前に展示されているパネルでは、家屋の地域差（材料や間取りの違い）の例、またいろりや神窓で「してはいけないこと」など、当時のくらしの様子を調べることができるため、あわせて見学をすることで、アイヌ文化への理解が一層深まります。 * 展示場2階の壁画「開拓」に描かれている家は、同じ時代の和人の移住者の家です。比べてみましょう。

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
3-2-3	くらしを彩る	第3テーマ	北海道の開拓が進むにつれて、大きなまちを中心に、飲み水、病院、学校、神社、寺のほか、鉄道などの交通がととのえられていきました。これらはしだいに農村や漁村などへも広がっていきました。大正ごろになると、扇風機や冷蔵庫などの目新しい商品が、お店だけではなくカラフルなカタログや広告からも手に入れやすくなりました。このようなくらしを彩る道具が、家庭のなかに多くみられるようになりました。	P.81	社会科（昔のくらしと道具）	北海道開拓の村では、移築・復元された家屋の中に、実物の資料が展示されています。これらの道具が、生活のどのような場所で、どのように使われたのかを実際にご覧いただくことができるため、博物館での見学とあわせてご利用いただくことで、より一層理解を深めることができます。
3-2-3	氷で冷やす木製冷蔵庫	第3テーマ	氷式の木製冷蔵庫は、1903（明治36）年ごろに魚河岸などで使われはじめ、1907（明治40）年には家庭用のもも製造されました。上の扉の庫内にはサイズを合わせた氷の塊を入れ、下の扉の庫内に食品を入れて冷やしました。この冷蔵庫を製造・販売した岩谷商会は、東京都京橋区銀座通りにあり、氷の回数券とセットで販売していました。しかし、庫内の温度は15℃前後程度で、しかも定期的に氷を補充する必要があったため、一般家庭に広く普及するまでには至りませんでした。	P.81	社会科（昔のくらしと道具）	第4テーマ「2くらしの大変化」にある【くらしの絶滅危惧種】では、昭和期の電気冷蔵庫が展示されています。 第3テーマと第4テーマをあわせてみることで、明治～昭和のくらしの道具の移り変わりがわかります。
3-3	うんちくマシン：北海道の地名っておもしろいかも？	第3テーマ	たとえば、地名をみてみましょう。とても多いのは、アイヌ語に由来する地名です。「別」「内」「尻」などの漢字がついた地名がたくさんあるのは、「ペツ（pet）」「ナイ（nay）」「シリ（sir）」などのアイヌ語にそれらの漢字を当てはめたからです。本州の地名と同じ地名が多いことにも気づきます。団体に移住してきた人びとが、故郷の地名をつけたからです。地域にゆかりのある人名が地名になったり、まったく新しい地名がつけられた場所もあります。	P.87	—	*このマシンでは、北海道のさまざまな地名の由来を調べることができます。地名の数は20個です。このうち、「アイヌ語に由来する地名」は10個、「本州などの地名や人の名前に由来する地名」は7個、「そのほかのいろいろな地名」3個になります。 Q. この地名の由来は何だろう？ A. 「アイヌ語に由来する地名」 登別、支笏、平岸、留辺蘂、美馬牛、春国岱、咲来、稚内、一己、厚軽白内 「本州などの地名や人の名前に由来する地名」 永山、三笠、幸福、香川、今金、定山溪、新十津川 「そのほかのいろいろな地名」 銭函、米岡、鶴居 *事前学習で予想をすることで、博物館では 確かめ をすることができます。 *発展的な学習として、自分の住んでいる地域の地名、訪れたことがある地名、または気になった地名を調べてみることもできます。

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
4-2-2	くらしの絶滅危惧種	第4テーマ	1950（昭和25）年、ミシン。1956年、電気洗濯機。1965年、ポータブルテレビ。1969年、8ミリ撮影機・映写機セット。これらは、年末年始の風物詩ともいえる「お年玉つき年賀はがき」の特等・1等賞品です。テレビの本放送開始は1953年、カラーテレビがひろまるのは1964年の東京オリンピックがきっかけでした。昭和20年代後半から現在まで、くらしを取り巻く品々はめまぐるしく変わっています。	P.100～P.101	社会科（昔のくらしと道具）	第3テーマと第4テーマをあわせてみることで、明治～昭和のくらしの道具の移り変わりがわかります。
4-2-2	600形電話機「黒電話」	第4テーマ	1950（昭和25）年、4号自動式卓上電話機が誕生し、日本の電話機の普及に大きく貢献しました。1962（昭和37）年には性能を大幅に向上させた後継機である600型電話機が登場します。ともに、戦後復興期から高度経済成長期を支えた電話機でした。	P.100～P.101	社会科（昔のくらしと道具）	－
4-2-2	電気洗濯機	第4テーマ	東京芝浦電気株式会社（現在の株式会社東芝）が開発・製造し、1957（昭和32）年に発売を開始した自動反転噴流式洗濯機VQ-3型です。この洗濯機には、ローラー式の脱水機がついています。ゴムのローラーが2本ついていて、この間に洗濯物をはさみ、ハンドルを手で回して洗濯物の水を絞りました。	P.100～P.101	社会科（昔のくらしと道具）	－
4-2-2	テレビ	第4テーマ	1953（昭和28）年、テレビの本放送が始まりました。1956（昭和31）年には、NHK札幌テレビ局が開局し、北海道でもテレビ放送が始まります。あこがれの家電製品として、テレビ、冷蔵庫、洗濯機が「3種の神器」と呼ばれるようになります。テレビ放送が始まったころの人気番組は、プロレスや相撲の実況中継で、街頭テレビやテレビのある施設に、多くの人が集まりました。その後、1959（昭和34）年の皇太子ご成婚、1964（昭和39）年に開催された東京オリンピックなどがきっかけとなって、家庭にもテレビが普及するようになったといわれています。	P.100～P.101	社会科（昔のくらしと道具）	－
4-2-2	足踏みミシン	第4テーマ	今なお、お正月に楽しみなお年玉つき年賀ハガキ。1955（昭和30）年の特賞賞品が、この足踏みミシンでした。足袋（たび）や靴下（くつした）、ストッキングなどの製造・販売を手がける、福助株式会社が製造したものです。	P.100～P.101	社会科（昔のくらしと道具）	－

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
5-1-1	ヒグマ	第5テーマ	やあ、ぼくはヒグマ。北海道の山ならどこにでもいるよ。春には山菜、夏にはアリやハチなんかを食べているよ。秋はどんぐりがごちそうさ。意外と草食系なんだ。僕は山の主、こわい物はないよ。あ、ヒトだけはこわいな。鉄砲持ってるヤツもいるからね…。	P.109	理科（生物）	* どんな生き物も単独では生きられず、別の種類の生き物と常に関わり合い、さまざまな形の〈つながり〉を結びながら生きています。このテーマでは、北海道の豊かな自然も、そのような生き物どうしの〈つながり〉によって支えられていることを学ぶことができます。また、「ヒトの近くの自然」では、ヒトとほかの生き物が、どのようにすれば一緒にくらしていけるのかを考え、学ぶことができます。 * なお、解説は資料付近に設置している「生き物つながりナビ（タッチパネル式の解説装置）」で読むことができます。
5-1-1	エゾシカ	第5テーマ	北海道の冬をこすのは、命がけ。寒いし、食べ物はあるまりないし。ササや雪にうもれた草くらい。雪が深いときは、木の枝や樹皮も…特に、オヒョウとニシの皮はまあ悪くはない味かな。食べすぎて木が枯れちゃうってヒトは困ってるけど、わたしらが増えすぎたのはわたしらのせいじゃないからね。	P.110	理科（生物）	同上
5-1-1	シマフクロウ	第5テーマ	わしらは魚ばかり食っておるわい。昔はサケがたくさんぼってきて、食べ物には困らなかったものじゃ。アイヌの人たちは、わしらのことを村を守る神として大切にしてくれたもんじゃが…わしらがすめる森、子育てできる大木も、今ではすっかり少なくなってこの先くらしていけるかどうか心配じゃのう……。	P.112	理科（生物）	同上
5-1-2	サケ	第5テーマ	この川で生まれたのはもう4年も前…ずいぶん経ったのね。豊かな海でぐんぐん成長して、こんなに大きくなって帰ってきたの。毎年、たーっくさんの仲間たちがはるか遠くまで命がけの旅をして、生まれた北海道の川に帰ってくるわ。 でもこのごろは、ほとんどの仲間が途中でヒトにつかまっちゃう。自由に川で卵を産むこともできない仲間が多いの。	P.112	理科（生物）	同上
5-1-2	キツネ	第5テーマ	秋はうれしい季節♪ 川に行けばサケが食べられるからね。 1尾食べたら、お腹いっぱい！生きてるヤツをつかまえるのはさすがにむずかしいけど、クマの食べ残しを狙うのさ。早く、そのサケ食べ終わってよ～。あ、できれば脂がのったハラスを残しておいてね……。	P.113	理科（生物）	同上

番号	展示名（資料名）	展示テーマ	解説	ビジュアル 北海道博物館	関連する教科	学習のポイント
5-1-2	タンチョウ	第5テーマ	キレイな見かけに似合わずいろいろな魚や、タニシやザリガニ、ミミズにカエルまで何でも食べるよ。草の葉やどんぐりなんかもOK。 一時期はぐーっと少なくなって、絶滅したって思われていたんだって。でも親切なヒトたちが守ってくれたおかげで、仲間も増えてきているよ。 昔は石狩平野にもいたそうだけど、今は湿原がすっかり減ってしまって、すめる場所が限られちゃってるんだ。	P.113	理科（生物）	同上
5-1-3	トド	第5テーマ	魚やタコ、イカが大好き！ 今日もたくさん、ムシャムシャ。 網にいる魚を食い荒らすから漁師には「海のギャング」とか言われているようだけど、海の中にタラヤカレイがぶら下がっていたら、やっぱり食べたくなるよね。 ぼくらは、他の国では数が減ったから保護されているんだけど、北海道では「駆除」されちゃうんだよね。	P.114	理科（生物）	同上
5-1-3	ハシボソガラス	第5テーマ	ガアー、ガアー。今日の朝ごはんはネズミイルカ！早起きしてよかったガアー～。 街ではハシボソガラスのやつらも一緒だけど、なぜかあいつら、海岸にはあんまり来ないんだよなあ。こんなごちそうがあるのに…。ま、ライバルが少ないのはいいガアー。 でも浜にはカモメがいるしなあ。あ、さっそく1羽来たぞ。渡すもんかガアー～！	P.115	理科（生物）	同上